

## 2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会		主 査 名：羽染武則 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (音環境運営委員会)		委員長名：加藤信介 主 査 名：平松友孝
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2008 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合住宅の室内で発生騒音に関して、遮音性能評価水準を検討し、実務で生じる苦情等の是非に対する判断基準として活用できるようにする。</li> <li>・2005 年 床衝撃音、室間遮音の評価水準の作成。室内騒音に関する現状の基準の課題の洗い出し。</li> <li>・2006 年 室内騒音に関する評価水準の検討。文献調査の実施。</li> <li>・2007 年 室内騒音に関する音源ごとの評価水準(案)の作成。</li> <li>・2008 年 室内騒音に関する評価水準(案)についてのシンポジウムの開催。当学会としての評価水準の提案。</li> </ul>		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有り 1 名 羽染武則(東急建設)、高久勝彦(鹿島建設)、岩本毅(三井住友建設)、大脇雅直(熊谷組)、木村和則(小林理研)、山下恭弘(信州大学)、浜田幸雄(日本大学)、坪井政義(大林組)、渡辺秀夫(音環境研究所)、徳山久雄(徳山設計事務所)、藤本一壽(九州大学)、大内孝子(東横学園女子短期大学)、田端淳(大成建設)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2006 年度予算	53,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	7 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1．遮音性能基準に対する設計・販売・居住者による要求が異なる。 2．学会基準の性能を評価する「聞こえ方の表現」が適切でない。 3．学会基準が裁判などの紛争解決に用いられることの問題。
委員会活動の問題点・課題	1．問題点については、委員の意見も含めて、ほぼ網羅されたが、今後、どのような性能評価方法が適当であるかについて委員の意見が一致しなかった。 2．具体的な評価水準のあり方についてのビジョンがまとめられなかった。 3．

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

\* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

## 2006 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>C</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>集合住宅における遮音基準に係る問題や居住者とのトラブルやクレーム、裁判事例、インターネットの書き込みなど、各委員からの情報を検討し、様々な問題点を洗い出して、現状の遮音基準と解説に対して、改定の方向が望ましいとの結論に至っているが、どのような評価基準が望ましく、その方向性についてのビジョンがまとまるまでには至らなかった。</p> <p>来年度、討論会を開いて、委員以外の学会員の意見を集約して、今後の評価基準のあるべき姿または評価方法の提案に繋がるような討論と検討を行っていききたい。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。